



# ふじみだい

## 人権週間に寄せて

校長 和田 みずほ

小春日和のやわらかな光の中、走り高跳びの自己記録に汗びっしょりになって挑戦する子どもがいます。瞬く間に月日が流れ、2023年があと1か月を残すのみとなりました。

さて、12月4日から人権週間が始まります。これは、国際連合で1948年12月10日の第3回総会において世界人権宣言が採択されたことに由来します。

日本では、法務省と全国人権擁護委員連合会が世界人権宣言の採択を記念し、1949年に毎年12月10日を最終日とする1週間(12月4日から同月10日まで)を「人権週間」と決めました。

富士見台小学校でも、今年はふたつのことに取り組みます。ひとつは、自分や友達の良いところを見つける活動です。もう一つは、富士見台子ども人権会議です。「笑顔いっぱい 心は一つ みんななかよし 富士見台」をテーマに友達とのかかわり方を見つめ、自分にできることを考えます。

教室を回っていると子どもたちの様々な光景を目にします。先日は、5年生のあるクラスで算数の時間に自分の考えを一生懸命話そうとする子どもがいました。良い考えを思いついたから友達に伝えたいのだけれど、うまく伝えられるかどうか自信がないし、自分の説明を友達が認めてくれるかどうか心配だしという気持ちがないまぜになっているかのように逡巡する姿が見られました。友達の発言を他の子どもがじっと待つ時間が流れました。そのとき、「がんばれ。失敗は成功のもとだよ。」と声がかかりました。互いを思いやりながら学ぶ姿に心が温くなりました。

子どもたちは、いつも優しい子どもだというわけではありません。自分のしたいことと友達のしたいことがぶつかり合って、もめごとになることもあります。自分はよかれと思ってしたことでも、相手にとっては不快であることもよくあります。教室では、小さなトラブルがしばしば起こります。「どうしてそうってしまったのか。」「どうすればよかったのか。」ということを考えることで、相手の気持ちを慮ることの大切さに気付いていくのではないかと思います。

保護者の皆様、地域の皆様、学校関係者の皆様、2023年も富士見台小学校の教育活動について、ご理解ご協力いただきましてありがとうございます。どうぞ、よいお年をお迎えください。